

令和7年度 学校経営報告書（自己評価）

学校番号	62	学校名	静岡県立遠江総合高等学校	校長名	門間 秀雄
------	----	-----	--------------	-----	-------

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア	基本的な生活習慣の確立と規範意識の向上を軸に、心身ともに健康・健全で自他の生命(いのち)を尊ぶ心を育てる教育を推進する。	・爽やかな挨拶を意識できた生徒70%以上 ・身だしなみを意識して生活できた生徒90%以上	・挨拶については、どの学年も達成率90%を超えた ・身だしなみについても、達成率90%を超えた	A	・学校全体が落ち着いた雰囲気になってきており、このような結果に繋がった。身だしなみについては、全体として良好であるが、同じ生徒が指導を受ける場面がみられ、継続して改善を促していきたい。
		・欠席、遅刻、早退者数の減少 (昨年 1日平均：欠席18.4人、遅刻5.8人、早退2.9人)	・クラス数1減ではあるが、いずれも減少傾向にある (1日平均：欠席16.4人、遅刻5.2人、早退2.1人)	A	・インフルエンザ蔓延に伴う休校や年次閉鎖が、今年度11月、1月に相次いだ。今一度感染対策を徹底していく必要がある。
		・法や学校のきまりを守ることができた生徒90%以上	・どの学年も達成率が90%を超えた	A	・現在の良好な状態を維持できるよう指導を継続していきたい。
		・生徒手帳の効果的利用ができた生徒80%以上	・生徒手帳の効果的利用については達成率が57%と低い状況であった	B	・校内での活動時には、生徒手帳を活用する習慣を身につけさせる。 (必要に応じてスマートフォンとの併用)
		・「自分には、よいところがある(自分を大切にしようと思っている)」と答える生徒90%以上	・すべての年次において95%以上となり目標を達成	A	・生徒一人ひとりがそのままの自分を認め、他者と比較せず自己価値を実感できるよう、授業・HR・部活動等を通じて全教職員が今後も引き続き支援していく。
		・相談できる友人や先生がいる生徒90%以上 ・生徒相談件数 昨年比減(昨年 延べ107件)	・92%と非常に高い値となった 1年：90% 2年：93% 3年：92% ・生徒相談件数は延べ68件	A	・成果目標はほぼ達成できた。一方で相談件数は減っているが、相談することに抵抗があったり特性上の困難を抱えていたりする生徒の存在が考えられる。こうした生徒に教職員が積極的に働きかける体制をさらに充実させ、安心して相談できる環境づくりを継続していく。

イ	系列・年次・教科を超えた協力体制のもと、遠高16の力の育成をめざしたキャリア教育の定着と改善を図り、多様な進路実現を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒アンケート(研修課)で「キャリア教育を推進している」が昨年比増(昨年 86.3%) 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な授業で、「キャリア教育(一人ひとりの「自立」を目指す教育)を推進している」と実感した生徒は92% 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・教育活動全体を通しキャリア教育が推進できている。今後も生徒の自立を支える教育活動に充実を図っていく。
		<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育に関するアンケートで、『聴く力』と『計画的に取り組む力』に関して「できない」と回答する生徒0%、 ・『自ら行動する力』と『学びに向かう力』に関して「できる」と回答する生徒75%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・推進室実施のキャリア教育アンケート 『聴く力』については (<u>できないの回答率</u>) 3年0.65% 2年0% 1年0% 『計画的に取り組む力』 (<u>できないの回答率</u>) 3年2.4% 2年0% 1年0% 『自ら行動する力』 (<u>肯定的な回答率</u>) 3年88.5% 2年93.0% 1年91.0% 『学びに向かう力』 (<u>肯定的な回答率</u>) 全学年とも85%を超える数値であった(7、12月) 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き日々の教育活動の中で、生徒の様々な力をさらに伸ばしていきたい。 左記4つの力について、概ね良好な結果が得られ、キャリア教育の成果が表れている。
		<ul style="list-style-type: none"> ・2年次への円滑な移行とキャリア学習の接続をサポートする。 ・「卒業後の進路を見据えて系列・選択科目を選ぶことができた」と回答した生徒80%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・「卒業後の進路を見据えて系列・選択科目を選ぶことができた」と回答した生徒91% ・「自分の将来について考えることができた」と回答した生徒96% 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・進路意識の高い生徒が多いが、より具体的な進路を見据えて精選できるよう、進路に対する意識の醸成を図りたい。 ・系列を選択した生徒に、将来的をイメージできるよう、関連進学先・就職先への理解を深める学習等に反映させる工夫が必要である。 ・1、2年次においては職業観の視野を広げる学習として「産業社会と人間」「遠高プロジェクト」をより充実させ、キャリア教育との接続を強化していく。
		<ul style="list-style-type: none"> ・進路決定率100%(3年次) ・希望進路決定率 2年次80% 1年次60%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・3年次生の就職内定は、年内に100%を達成 ・希望進路決定率 2年次生96%、 1年次生88%(7月) 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・各年次との綿密な連携により、円滑に進路選択ができる体制が整い、進路指導が効果的に機能した。 ・1、2年次生の希望進路については、今後変更が考えられるものの、自身の将来と真摯に向き合う姿勢が見られる。

<p>ウ</p>	<p>学習習慣の定着を柱にした基礎学力の向上ならびに、全ての教科科目でわかりやすく、主体的な学びをめざす授業改善と評価の改善に取り組む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習時間 1日平均 60分、定期テスト1週間前から90分をめざす。 ・「課題内容は自分の学力にとって適当なものである」と答える生徒 70%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・「家庭学習時間 1日平均 60分、定期テスト1週間前から90分」と回答した生徒 26% ・「課題内容は自分の学力にとって適当なものである」と回答生徒 91% (全体) <p>《国語》 約 80%を超える生徒が満足と回答</p> <p>《地歴公民》 テスト範囲の提示を早め、家庭学習に繋げることができ、90%超が満足と回答</p> <p>《数学》 80%超が満足と回答</p> <p>《理科》 授業内容について平均 97%が満足・ほぼ満足と回答</p> <p>《保健体育》 90%以上が授業について満足と回答</p> <p>《芸術》 授業について 95%超が満足と回答</p> <p>《英語》 70%以上が授業について満足と回答</p> <p>《家庭》 1年次では日々の生活の中から課題を見つけるホームプロジェクトを実施し、生徒各自が課題を見つけ生活改善に結びつけた</p> <p>《農業》 80%以上が授業について満足と回答</p> <p>《工業》 80%以上が授業に満足と回答</p> <p>《商業》 80%以上が授業について満足と回答</p> <p>《福祉養護》 80%以上が授業について満足と回答</p>	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3年次生を対象に一般常識テストを年5回実施し基礎学力の涵養を図った。 ・全学年でスタディサブリの活用を開始したが、課題として取り組ませているものは少なく、今後課題内容についての生徒の受け止め方を注視し、活用を図っていききたい。 ・例年よりテストへの学習姿勢が向上した。さらに基礎学力の定着を促すための取り組みについて工夫が必要である。 ・早い段階でのテストを意識した学習習慣を育成していききたい。 ・生徒一人ひとりに合わせた課題設定や活動量の調整を工夫していききたい。補助プリントの作成など生徒の理解を深める支援を継続していく。 ・テスト前にはCラーニングを活用し、練習問題をドリル形式で提供することで、学習を促した。 ・資格取得への意欲向上を図り、将来につながる学びとなるよう工夫した。
----------	--	---	---	--

	<ul style="list-style-type: none"> ・「以前よりも本に親しむことができた」と答える生徒 60%以上 ・効果的な新聞活用指導の継続 ・図書室の利用者数増 	<ul style="list-style-type: none"> ・前年に比べ図書室利用者数および貸出数が増加。固定利用者も増加したことから一定の成果があった ・新聞活用指導は、校内に3紙の新聞を読めるスペースを設け毎朝配架した ・生徒が興味を持ちそうな話題の本や名作漫画を購入し図書室に配置したことで、以前より多くの生徒が図書室を利用するようになった 	<p style="text-align: center;">B</p> <ul style="list-style-type: none"> ・朝読書により本を読むきっかけができています。 ・スマホ普及に伴う新聞離れが課題としてあり、活字離れにならないように、朝読書や新聞記事などを読む活動を授業でも取り入れるなど、活字に親しむ機会を確保していく必要がある。 ・アニメ上映会のイベントを実施し、更なる図書室利用者拡大を狙ったが、イベント内容の精査や告知方法の改善など、工夫の余地が残る。
	<ul style="list-style-type: none"> ・定期訪問時の研究授業や研究協議への参加率 100% ・全教員がアクティブラーニングを意識した授業を管理職の授業観察時に実践(実施率 100%) ・公開授業への参加回数平均 3 回以上 ・測定ツールで把握した学力に基づき、授業改善に取り組んだ教員 80% 以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・参加率 100%であった(出張を除く) ・実施率 100%には至っていないが、アクティブラーニングを意識した授業実践は着実に増加傾向にある ・全授業を公開授業として位置づけたが、参加状況は十分でなかった ・測定ツールを活用した授業改善については、教科によるばらつきが見られた 	<p style="text-align: center;">B</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修の意義について、教職員間で共通理解を深めていく必要がある。 ・特に公開授業については、推奨期間を明確に設定し、授業の着眼ポイントなどを事前に授業担当者が示す形態で、次年度は実施していきたい。 ・授業改善として、授業時の端末活用を積極的に進めていきたい。 ・当該教科には、測定ツールを活用した授業改善を年間指導計画に位置付ける。
	<ul style="list-style-type: none"> ・年2回の授業アンケートを実施し活用する。(継続) 	<ul style="list-style-type: none"> ・年2回のアンケート実施及び取りまとめを行った 	<p style="text-align: center;">A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次年度も継続実施する。
	<ul style="list-style-type: none"> ・全科目で評価方法の点検を行い、シラバスに反映させる。(実施率 100%) 	<ul style="list-style-type: none"> ・全教科でシラバスの点検を行った 	<p style="text-align: center;">A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒が確認しやすいように年次別フォルダを作成する。

様式第3号

エ	<p>新学習指導要領への移行を踏まえ、新しい教育課程の検討を軸にしたカリキュラムマネジメントの推進を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・探究活動、ICT活用のための校内研修の実施と外部研修への積極的な参加 ・校内研修の教職員満足度70%以上 ・教育課程の点検、検討を進める。(社会に開かれた教育課程を意識) ・ESD(持続可能な開発のための教育)の理解推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・研修は予定通り実施し、ほぼ全員が参加した ・「有意義だった」と回答した職員が100%であった(ICT活用の校内研修アンケート) ・今年度入学生から7系列を5系列に減らした教育課程に変更をした ・1年次「産業社会と人間」の授業において、SDGsについて取り扱った 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・探究活動のカリキュラムは、次年度が完成年度となる「遠高プロジェクト」を中心に探究活動の活性化を図っていく。 ICTを活用した学習形態は常に新しくなるため、今後も継続的に研修の機会を設けていく必要がある。
オ	<p>双方向の積極的な地域連携と外部発信により、社会に開かれ、地域に愛される学校づくりを推進する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育に限らず、生徒自身が地域に出て行く機会を増やす。 ・各部活動による年1回以上のボランティア活動の実施 ・系列や専門分野での外部人材の活用推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・運動部4部活が実施(野球、陸上、テニス、弓道) 文化部9部活が実施(吹奏楽、美術、書道、地域家庭、茶道、科学、写真、食品園芸、メカトロ) 《国語, 数学, 英語, 工業》 地域連携や外部人材の活用の機会が十分に確保できていない 《地歴公民》 3年次の選択授業「郷土研究」では1年を通して地域のフィールドワークを行い、慈恩寺の歴史博物館館長さんや地域のお茶屋さんと交流し森町に対する知識や経験を豊かにできた 《理科》 2年次「遠高プロジェクト」でエネルギー関連会社や大学教員の協力を得て研究を行った 《保健体育》 体育大会において地域の保育士・幼児と一緒に競技に参加した 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学校全体として、外部との連携において学年を超えた縦の繋がりができてきた。今後も継続していく。 ・ボランティア活動は昨年度より3部活増えた。 地域から愛される学校となるよう自発的活動を促す指導を引き続き行っていく。 《今後の取組として》 ・探究活動カリキュラムの完成年度となる来年度は、系列の横断的な取り組みを実施したい。 ・授業作品展や発表の場を設け、多くの方に見てもらえる機会を用意する。 ・授業内容と関連させ、オンラインで海外の高校生との交流(台湾を計画)を実施。 今後も外部との連携を積極的に増やし、地域資源を効果的に活用していく。

		<p>・「学習活動において、地域との交流が行われている」と答える生徒70%以上</p>	<p> ≪芸術≫ 森町の伝統工芸、伝統音楽は、外部講師指導のもと授業を毎週行った ≪家庭≫ 保育実践の授業では、幼稚園実習を行ったり、園児を体育大会に招待したりと交流ができた フードデザインの授業では、専門学校教員による食育授業を実施した ≪農業≫ 地域が主催するイベントに運営側として参加した 農業関係の外部講師を数多く招くことができた ≪商業≫ 銀行職員による金融セミナーを実施し、将来の金融資産への考えを学ぶことができた ≪福祉養護≫ 施設実習や福祉用具の講義、地域の点字サークルの講師の指導などを取り入れ授業を行うことができた </p> <p>・「地域とかかわる機会がある」と答えた生徒は84.0%</p>		
		<p> ・学校ブログの更新、週1回以上 ・各部活動や系列の活動状況、学校行事の様子等を、大会や行事終了後1週間以内に、ホームページに掲載 ・「学校ホームページを見たことがある」と答える生徒70%以上 </p>	<p> ・ほぼ毎日ブログの更新を行った ・ホームページへの学校行事、部活動の活動状況などの更新に努めた ・「学校ホームページを見たことがある」と回答した生徒54% </p>	<p>A</p>	<p> ・情報の集約を常時行うことで、新しい内容の迅速な掲載につながっており、今後も継続していく。 在校生徒のホームページ閲覧率は低調であるが、保護者や中学生へは有効な情報提供のアイテムとなっており、引き続き活用を進めていく。 </p>

様式第 3 号

カ	効率の良い業務遂行、業務改善ならびに行事の点検と精選を進め、職員の適正なワークライフバランスの推進と安全・安心な教育環境の整備に努める。	<ul style="list-style-type: none"> ・年 3 回の防災訓練のうち、事前通知なしの訓練の導入検討 ・防災に関するアンケートの実施、「防災意識の高まった」と答える生徒 80%以上 ・学校警備及び防災計画の継続的な点検、改善 	<ul style="list-style-type: none"> ・防災訓練を年 3 回実施 事前告知なしの訓練は 3 月 13 日に実施予定 ・自衛隊による防災講話および体験（担架・土嚢）を実施 ・防災に関するアンケートを実施し、90%以上の生徒が「防災意識が高まった」と回答 (第 1、2 回：ともに 97%) 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・防災意識をさらに高めるような防災訓練等の実施を検討（自衛隊・消防士・森町役場・近隣の学校など外部との連携、授業中の避難、負傷者の救出、担架や車椅子による避難、倒壊箇所を避けた避難経路など） ・防災に関する体験活動の充実を図る。（年次ごとの体験など） ・防災計画や危機管理マニュアルの継続的な点検や改善を行う。
		<ul style="list-style-type: none"> ・時間外勤務の出勤簿への正確な記入 ・1 ヶ月あたりの時間外勤務 45 時間以内、年間 360 時間以内 ・夏季休暇の完全取得 ・【定時退勤日】 午後 4 時 40 分退勤励行 午後 6 時完全退勤 【平常勤務日】 午後 7 時退勤励行 午後 8 時完全退勤 ・部活動ガイドライン履行達成率 80% 	<ul style="list-style-type: none"> ・勤務時間入力システムが定着し、正確な勤務時間の把握が可能になった ・12 月末時点での時間外勤務 45 時間超えの回数及び人数は 127 回・29 人で、昨年の 135 回・31 人よりやや減少した。また、80 時間超えの回数及び人数は、28 回・8 人で、昨年の 48 回・10 人より減少した 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・働き方改革の浸透により長時間労働が徐々に改善されている。一方で、一部の教員では依然として長時間勤務が多い状態が続いている。業務の平準化を意識し、心身の健康が保持できる環境を整備するよう取り組んでいく。 ・平常勤務日においては、午後 7 時退勤および午後 8 時完全退勤を徹底するため、午後 8 時以降に残業する場合、申請制度を設けた。導入により、時間管理の適正化を図っていく。 ・定時退勤日の設定 (毎週月曜日)
		<ul style="list-style-type: none"> ・コンプライアンス研修 毎月 1 回 ・教職員による 不祥事、体罰 0 件 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月の職員会議後に実施 ・不祥事 0 件、体罰 0 件 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・教育者として、生徒や保護者・地域からの信頼に応えられるよう、引き続きコンプライアンス意識を高め、教育の質を向上させていく。

様式第3号

		<ul style="list-style-type: none"> ・教員と事務職員の連絡を密にし、計画的な予算執行の実施。 ・日頃からの清掃、点検、整備（校舎内外、農場含む）、危険箇所等の早期発見と改善に努め、施設に関する事故0件 	<ul style="list-style-type: none"> ・予算が厳しい中、教員と事務職員が連絡を密にとり、予算内で工夫して執行できた ・施設に関する事故0件 	<p style="text-align: center;">A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後更に予算が厳しくなり、要求通りの予算確保が難しくなることが予想されるため、予算配分の工夫や優先順位付けなどが課題である。 ・経年劣化等により施設の不具合箇所が徐々に増えているが、職員や管理業者と連携し、引き続き危険箇所等の早期発見・改善に努め、必要に応じて速やかに県に要望していく。
--	--	---	---	--